

4 平成19年度決算の状況

○水道事業会計

(1) 総括事項

水道事業

本市の水道事業は、給水人口の減少や景気の低迷の影響及び節水意識の定着により、使用水量が平成6年をピークに年々減少していき、今後も低下傾向にあります。

このような状況下で、安全で良質な水の安定供給を図りながら、歳出面においては経費の節減等による経営の合理化に努める一方、歳入面においても、積極的な収納確保に努めた結果、今年度も利益を確保することが出来ました。

また、今後の課題として老朽化した施設の改築更新が必要となるため、計画的な施設改良に取り組んでまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,790,901^m（1日平均10,358^m）で、前年度と比較して145,658^m（3.7%）の減少となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で71,636,460円（うち消費税及び地方消費税3,411,260円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・緩速ろ過池（4号）改修工事	17,955,000円
・防鹿水源地監視制御システム整備工事	23,484,300円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成19年度の収益的収支は、収入総額549,442,156円、支出総額500,303,841円で、差引き49,138,315円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	549,442,156円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	500,303,841円
	差引利益額	49,138,315円
資本的収支	収入総額	115,301,606円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	495,623,667円
	差引不足額	380,322,061円

資本的収支の不足額380,322,061円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,411,260円、過年度分損益勘定留保資金131,533,203円、当年度分損益勘定留保資金156,416,642円、減債積立金58,887,207円及び建設改良積立金30,073,749円で補てんしました。

○工業用水道事業

(1) 総括事項

工業用水道事業

工業用水道事業は、効率的な事業運営など財政の健全化に努めましたが、第2期工業用水道事業の企業債償還利息及び減価償却費が費用化されたことに伴い、これらの要因が財政を大きく圧迫することとなり、本年度も経常損失となりました。

また、資金不足に対応するため、前年度に引き続き水道事業会計から 300,000 千円を借り入れました。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、15,731,893^m₃（1日平均 42,983^m₃）で、前年度と比較して 1,178,010^m₃（8.1%）の増量となりました。

(イ) 建設改良

本年度は、施設の改良工事費に総額で 2,205,000 円（うち消費税及び地方消費税 105,000 円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

- ・ 工水真空ポンプ運転回路改良工事 2,205,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成19年度の収益的収支は、収入総額 341,552,344 円、支出総額 523,020,664 円で、差引き 181,468,320 円の純損失となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	341,552,344円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	523,020,664円
	差引不足額	181,468,320円
資本的収支	収入総額	660,616,000円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	678,000,208円
	差引不足額	17,384,208円

資本的収支の不足額 17,384,208 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 105,000円、過年度分損益勘定留保資金 17,279,208円で補てんしました。

○公共下水道事業

(1) 総括事項

公共下水道事業は、安全で快適な生活を営むうえで必要不可欠であるうえ、河川等の水質保全など生活環境の向上を目的としています。

本市では下水道整備を昭和35年より工事に着手し、昭和45年に供用開始と早い段階より事業展開を行ってきました。

このことで、本市の公共下水道事業は建設段階から維持管理段階へ移行しており、今後は安定した事業経営を行うため経営状況の改善に努めてまいります。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、3,440,728^m³（1日平均 9,401^m³）、和木町からの受入水量は1,619,170^m³（1日平均 4,424^m³）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.5%を達成し人口普及率も93.4%と高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で 598,596,414 円（うち消費税及び地方消費税 27,671,570 円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

- ・大竹下水処理場ブロワー棟電気設備改築更新工事（その1） 33,792,150円
- ・小島汚水中継ポンプ場バルコン・ホッパー改築更新工事 63,000,000円
（機械設備）
- ・大竹下水処理場ブロワー棟電気設備改築更新工事（その2） 166,417,650円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成19年度の収益的収支は、収入総額 857,454,424 円、支出総額 830,730,553 円で、差引き 26,723,871 円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	857,454,424円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	830,730,553円
	差引利益額	26,723,871円

資本的収支	収入総額	1,282,269,462円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	1,438,497,994円
	差引不足額	156,228,532円

資本的収支の不足額 156,228,532円及び前年度一時借入金で措置した 94,828,710円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 11,069,857円、当年度分損益勘定留保資金 239,987,385円で補てんしました。